

## Data



## 理系Ph.D.課程修了後の進路統計

p.99において、アメリカの大学院では、卒業後の進路が多様多様であることを紹介しました。ここではPh.D.課程修了後の進路を分野別に比較してみましょう\*1。

図1では、アメリカのPh.D.取得後の進路を、図2では、アメリカのPh.D.取得後の就職内訳を、それぞれ分野別に比較しています。図1における「就職」の内訳を詳しく表したものが図2です。図1から、生命科学系と物理学系専攻の場合、過半数以上がポスドクの道を選んでいることがわかります。工学系の場合、ポスドクになる割合は低く、全体の3割強です。図2から、工学系は企業への就職が非常に多いことがわかります。また、生命科学に比べて、物理学の方が、企業就職の割合が高いこともわかります。生命科学系は、図1と図2の両方から、大半がアカデミアへ就職する傾向にあることが読み取れますが、政府機関への就職率が高いのも特徴となっています。

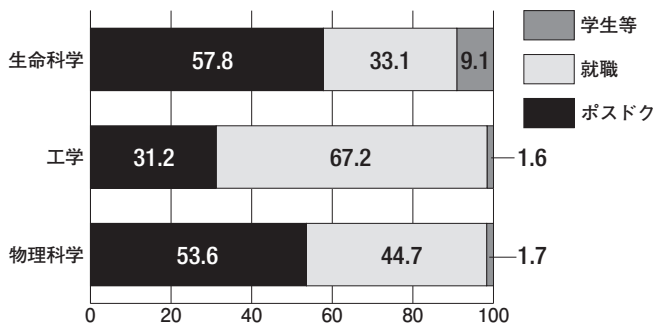


図1：アメリカの分野別Ph.D.取得後の進路（2005年）

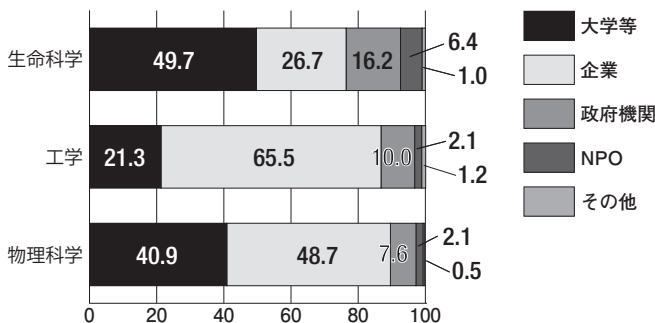


図2：アメリカの分野別Ph.D.取得後の就職内訳（2005年）

\*1：出典：平成20年度科学技術振興調整費調査研究報告書 第3期科学技術基本計画のフォローアップに係る調査研究「大学・大学院の教育に関する調査」プロジェクト第1部 理工系大学院の教育に関する国際比較調査」